

タイトル「最後の幻想」

相「どーも！ 惑井城（まどいじょう）と申します！」

セイ「名前だけでも覚えて帰ってくださいね」

相「さて、セイ、今日は何やろか」

セイ「なあ、一生のお願いしていい？」

相「一生のお願い？ お前がそれ使うときって大抵ろくでもないやん。お前俺にゲーム借りるときもそれ言ってたし、何回使うねん」

セイ「そう！ そのゲームやねん！ お前、ファイナルファンタジーって……知ってるか？」

相「バカにしとんのか！ 俺がお前に貸したゲーム、ファイナルファンタジー10 やろ」

セイ「あれにめっちゃ感動してな。俺ファイナルファンタジー作りたいねん」

相「はあ？ 無理やろ」

セイ「無理とか言うな！ ポケカス！！ 最近の若いモンはやりもせんと！」

相「っ！！ いきなり大声だすなや！」

セイ「じゃあ、俺、ファイナルファンタジー作るから、ほら、その棒持って縦に揺れて！ バトルシーン！」

相「縦に揺れる？ こうか？」

セイ「チッ、ビジュアルはイマイチやけど、まあ、ええやろ」

相「コイツ……！」

セイ「はい、じゃあ、主人公の最初のバトルシーン。敵はお前の兄ちゃん、商店街の真ん中でめちゃくちゃに暴れてるから倒して」

相「はあ！？ 兄ちゃん！？ なんで兄ちゃんが商店街で暴れてんねん！」

セイ「1ヶ月振りの休みなのに」

相「うん！」

セイ「嫁さんが友達を呼んでるせいで家を追い出されて」

相「うん！」

セイ「仕方なくパチンコ打ったら、持ち金全部負けたんだよ」

相「兄ちゃん！！（涙）」

セイ「ほら、殺し合え！」

相「戦えって言え！ 物騒やな！ く、まあ、ええわ。兄ちゃん、やめてくれ！ 人の自転車倒さんといて！ ドミノちゃうねんで！」

セイ「まあ、しゃーないよな」

相「んなわけあるか！ パチンコで負けたくらいで！」

セイ「いや、そりゃそうなるで」

相「はあ！？」

セイ「嫁さん、不倫してるから」

相「兄ちゃん！？！？」

セイ「ついでに今家に来ているやつ不倫相手ね」

相「兄ちゃん！？！？！」

セイ「ほら、兄ちゃん弱ってきたぞ！ とどめを刺すんや！」

相「くっそう！！」

セイ「クイックアクション！ スローモーションになっている間に、とどめをさせ！」

セイ、スローモーションで暴れる兄役を演じる

相「兄ちゃん、顔くしゃくしゃにしてめっちゃ泣いてるやんけ！ あああ、ごめん！！」

ズシャア！

セイ「称号『弱い者いじめ』が手に入りました」

相「こんなゲームできるかあ！！」

（棒を床に叩きつける相方）

セイ「ええ、やめんの？」

相「お前のファイナルファンタジー陰湿すぎんねん！ もっとハッピーなやつにしてくれ！」

セイ「じゃあ、ほら、右手で棒を担いで上下に揺れて」

相「また戦闘シーンか。しゃあないな……」

セイ「はい、その格好のまま走って！」

相「えっ！ このままってこうか？」

セイ「そうそう！ いいよ！ 揺れてるでかい神輿が見えてきた！！」

相「それ、ハッピーじゃなくて法被きとる奴やろ！」

セイ「ほら、ラブシーンやぞ！ その状態でヒロインに愛の告白！」

相「はあ！？ どこにおんねん！？」

セイ「神輿の上で大きなウチワ持ってるやつや！」

相「めちゃくちゃ主役張っとるやんけ！！ くそっ、こっからじゃ姿も見えへんな。でも言ってやる！ 俺、お前のこと、一生をかけて守るから！ ずっとそばにいる！」

セイ「祭りの声で聞こえないぞ！ もっと大きな声で！」

相「あああ！！ お前を一生離さない、ずっと愛してるううう！！」

セイ「ぶっくくっ……」

相「な、なんや」

セイ「いや、祭りの熱に浮かされてんなあって」

相「やめや！やめ！ 気分悪いわ！ 人の告白をバカにしがって！」

セイ「ごめんごめん、じゃあ、次はラストの感動シーンで終わるから、これが最後」

相「ほんまか？　しゃーないなあ」

セイ「ほら、全ての戦いが終わったヒロインが海辺で黄昏ているぞ。優しく声をかけて」

相「チッ　あー、やっと戦いが終わったな……」

ヒロイン「うん、〇〇やっと終わったよ……長く苦しい戦いだった」

相「これから、何がしたい？」

ヒロイン「そうだね、まずは少し休憩したい、かな。でも、まだまだ前途多難だよ。まずはお金を稼がないと」

相「お金……？」

ヒロイン「探偵代もバカにならないんだ」

相「探偵代？」

ヒロイン「それに……パチンコにも負けたしね」

相「ヒロイン、兄ちゃんやんけ！！」

兄「離婚して慰謝料はもらったけど、養育費ははらわないと」

相「夢も希望もないやんけ、どこがファイナルファンタジーやねん！！　おい、セイい！
どんだけ兄ちゃんいじめんねん！」

セイ「お前の告白に勇気づけられたと思うで？」

相「お前、俺の兄ちゃんなんやと思ってんねん！」

セイ、兄の振りして相方の肩を抱く。

兄「〇〇、心配かけたな。支えてくれてありがとう」

相「に、にいちゃん……」

セイ「兄ちゃんはとても疲れた顔をしていたが、眼差しはとても安らかだった。妻と子ども、家族と過ごしたあの日々を忘れることはないだろう。瞳の中では、今もあの情景が最後の幻想となって揺れていた……」

相「ふぁ、ファイナルファンタジー……」

セイ「お後がよろしいようで」

相「……実家帰って、兄ちゃんに会いたなったわ……」

セイ「みんな、家族仲良くな！」

セイ・相「どーもありがとうございました！」

無断転載・使用禁止。